



青森地本だより



自衛隊青森地方協力本部広報誌

発行・編集

自衛隊青森地方協力本部広報室

〒030-0861 青森市長島1丁目3-5

TEL 017-776-1594



QRコード

【ホームページ】http://www.Mod.go.jp/pco/aomori/ 【iモード】http://www.Mod.go.jp/pco/aomori/i/iaoindex.html 【Eメール】hq1-aomori@pco.mod.go.jp

発行によせて

自衛隊青森地方協力本部長
1等海佐 竹本 三保



私が青森地方協力本部長を拝命してから早いもので2度目の春を迎えました。

感じました。これからは同じ仲間として、健康に留意し、訓練や勉学に励んでいただきたいと祈念しております。

また、厳しい雇用環境にもかかわらず、企業主等の皆様から格別なるご理解・ご協力を賜り、昨年度は自衛隊退職者約100名の就職支援を達成するとともに、予備自衛官等の訓練出頭環境を醸成していただいたことにより、所要の訓練を円滑に完遂することができました。引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。

一方、防衛省・自衛隊の活動に目を転じますと、『国際平和協力法』に基づく「ハイチ派遣国際援助隊」をはじめとした国際平和協力活動（PKO活動）、『海賊行為の処罰及び海賊行為への対処に関する法律』に基づく「海賊対処行動（ソマリア・ジブチ）」など、国民の注目する中で与えられた任務を着実に完遂しております。この中には、青森県出身隊員はもとより県内にご家族を残されて派遣されている隊員が数多くおります。防衛省・自衛隊のこうした諸活動に對しましても、引き続き皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年も厳しい募集環境が続く中、県内の優秀な若人約260名が3月末から4月上旬にかけて陸・海・空各自衛隊等に入隊・入校し、それぞれの教育隊や学校等において元気に訓練・勉学に励んでおります。私も4月上旬に防衛大学校・多賀城第119教育大隊・青森駐屯地・横須賀教育隊・熊谷航空教育隊等で実施された各入隊・入校式に参列し、本県出身者の初々しい、また凛々しい姿を拝見させていただき、誠に喜ばしく、そして大変心強くも感じます。

理解を深めた「海自ライブ」

2月13日（土）青森市駅前再開発「アウガ」において「第2回海上自衛隊ライブ2010 in アウガ」と題して「知られざる海上自衛隊」広報展を開催した。

この催しは、海上自衛隊大湊地方隊、大湊システム通信隊及び第25航空隊の支援を受け、普段、海上自衛隊と接することの少ない津軽地域の住民を対象に、海上自衛隊の現状及びその魅力を広報することを目的として行ったもので、今回で2回目となる。

当日は、肌を刺す寒さの中、約150名の方が来場された。イベントでは、「海上自衛隊活動ビデオ放映」、「インタビュ形式による「海上自衛官の職域の紹介」、「手旗信号、ラッパ吹奏の展示・体験」、「南極観測支援従事者による「南極の氷紹介、体感」、「制服試着」や市内5個幼稚園児約130名による地本キャラクター「塗り絵コーナー」等の多彩な催しのほかに、アウガ1階入り口では、このイベントのために陸上自衛隊第5普通科連隊のネプタ師 有賀1等陸曹が作製した「地本キャラクター」「チボンちゃん」の着ぐるみを、女性海上自衛官 戸田3等海曹が着用して、来場された方にイベントの案内を行った。

各イベントコーナーでは、海上自衛隊に関する質問が多数寄せられるなど、来場者の海上自衛隊に対する関心の高さがうかがわれた。

来場した男性は「現在大学生の子供には、安定した職業で、幅広く活動する海上自衛隊への受験を勧めたい」と話していた。

厳しい就職の本県において、将来の選択肢の一つとして、我々自衛官にも興味を持っていただき、一人でも優秀な若人が志願していただける様、海上自衛隊の魅力を広めていきたい。

第2回 海上自衛隊 LIVE2010 in アウガ

MINISTRY OF DEFENCE AOMORI PROVINCIAL COOPERATION OFFICE



チボンちゃんの気ぐるみ初披露



海上自衛隊の制服紹介

新防衛モニターへ 委嘱状を交付

「防衛省・自衛隊のアドバイザー」

4月15日（木）及び16日（金）、地方協力本部において、今年度新たに防衛モニターに任命された青森市在住の葛西周吾氏（左上写真右から2番目）及び同じく青森市在住、松木千子氏（左下写真右）の2名に対し、防衛事務次官からの委嘱状を本部長から伝達した。

防衛モニターとは、我が国の防衛政策、防衛省・自衛隊の活動に対し、多角的にご意見をいただき、そのご意見を各種施策に反映させていくというものであります。

委嘱状の伝達後、本部長からモニターをお引き受け頂いたことに対する御礼と、今後、部隊見学・各種イベント等を通じて自衛隊に接して頂き、忌憚のないご意見を頂きたい旨を申し上げます。

これに対し葛西氏は「青森県には原燃や陸海空自衛隊、米軍が所在していますが、一般に自衛隊の活動についてはあまり知らないもので、モニターとして今後様々な訓練や行事、基地等見学に参加し、自衛隊の活動を知ることが有意義なことだと思っています」。

松木氏は「長年青森に住んで身近に感じていた自衛隊ではあるのに、自衛隊の事を聞かれると答えられない自分がありました」。

今回を機に少しでも自衛隊のことを知り、モニターとして参考なる意見を提出できるよう頑張ります」とそれぞれ抱負を述べられた。



『青春を懸ける若桜4名』の門出を祝う

制度変更後の第1期生

3月21日(日)、青森市「ホテル青森」において青森県自衛隊生徒父母の会が主催する高等工科学校生徒入校予定者激励会が行なわれた。

今年制度変更後の第1期生となる入校予定者4名と、各協力会、父兄及び自衛隊代表者が参加した。会では、青森県自衛隊父母の会会長(伊藤義明氏)の挨拶、陸上自衛隊第9師団副師団長兼青森駐屯地司令(陸将補川崎 朗)、全国自衛隊父兄会青森県支部連合会副会長兼事務局長(對馬敦夫氏)の祝辞のほか、北澤防衛大臣及び三村青森県知事の激励メッセージが披露され、第9通信大隊(青森駐屯地)所属で先輩隊員の3等陸曹一笠洋介が「同期とともに努力し、厳しい訓練を乗り越え、立派な自衛官を目指してください」と歓迎の言葉を述べた。



入校予定者を代表して八戸市立長者中学校の狩守裕一郎(いずもりゆういち)君が「私たち4名は、青春を高等工科学校に懸け頑張ります」と力強く決意と御礼を述べた。式典では陸上自衛隊第9音楽隊による激励演奏が行われ、激励会は盛会のうちに終了した。

MUTHU む

最後になります。今まで育ててくれた両親、お世話になった本場に多くの方々への感謝の気持ちを忘れず、立派な自衛官になります。

員として神奈川県に行きます。憧れていた海上自衛官になれて、今はとても嬉しいです。しかし、自衛官としての生活はとても厳しいものだと聞いています。勉強についても、体力面にしても、周りについていけるかどうかと言う不安は大きいですが、今までもと一緒に行きついてきた両親や家族と離れることは、正直に言って淋しいです。それでも、これからは一緒に過ごす仲間と励まし合い、支え合いながら乗り越えて行きたいと思っています。そして、どんなに苦しいことや辛いことがあっても、決して諦めることなく立ち向かっていきます。



2等海士 大湊高等学校 成田 咲子



第9音楽隊による激励演奏



北部航空音楽隊による激励演奏

4月から自衛隊に入隊し、パイロットを目指す上で必要な知識や技術をしっかりと身につけるとともに、団体生活では協調性を養い仲間と切磋琢磨しながら協力することを学んでいきたいと思っています。そして、航空学生生の試験に合格できたのは、家族をはじめ恩師や三沢募集案内所の中村広報官のお陰だと思っています。本当に感謝しています。ありがとうございます。

私が自衛隊の航空学生を志願した理由は、幼い頃から航空祭等のイベントに触れ合う機会が多く、自然と自衛隊に興味を持つていたこと、高校に進み職業として自衛官を意識するようになり、自衛隊ガイダンスに参加した折に自分たちの国土を守るという自衛官の仕事にとてもやりがいを感じたからです。特にパイロットは、海外支援活動等の国際的活動にも貢献できる機会が多く、より多くの国や国民の役に立てる可能性があるためです。



航空学生(海上) 六戸高等学校 堤 貴洋

明日の平和を願う二つの翼

双子で入隊

GOSYOGAWARA 五所川原

必要になるだろうが、今の自分にはそれが足りない。しかし、厳しい訓練に耐えてスキルと経験を身につけ、自分の未来を切り開きたいと思っています。自衛官として国民のために尽くしたいと思っています。不安もありますが、精一杯もがいてでも頑張りたいと思っています。

私は、以前テレビで見た自衛官たちのように、国民の生命と安全を守ることに全力を傾けることのできる自衛官になりたいと思っています。国民の生命と安全を守るということは、簡単なことではない。そのため、高いスキルと多くの経験が必要になるだろうが、今の自分にはそれが足りない。しかし、厳しい訓練に耐えてスキルと経験を身につけ、自分の未来を切り開きたいと思っています。自衛官として国民のために尽くしたいと思っています。不安もありますが、精一杯もがいてでも頑張りたいと思っています。



一般曹候補生(航空) 五所川原工業高等学校 工藤 洋輔

被災地で自衛官が懸命に救援活動を行う姿をテレビの映像で初めて目にしたとき、人命救助という尊い仕事に感動を覚えました。その後も、新潟県中越地震など大きな自然災害が発生するたびに、自衛隊が被災地につけて救援活動を行う様子をテレビで見ようになりました。そして、次第に私も自衛官として人の役に立つ仕事をしたいという思いを強くするようになりました。人命救助は一刻を争うものであるから、対応が遅れば批判を受けることもあります。したがって中途半端な気持ちでは、人の命を救うことは到底できないと思います。私は、被災地での救援活動で役立つ人材となれるように、これからの航空自衛隊での教育期間中、しっかりと訓練し、様々なことを学び、人に誇れるような人間になれるように努力したいと思っています。



一般曹候補生(航空) 五所川原工業高等学校 工藤 洋嗣

入隊・入校予定者激励会



『青雲の志を祝う』

各地で入隊予定者を激励

2月22日から3月4日の間、県内6個地区の自衛官募集事務連絡協議会等が主催して264名の入隊予定者の前途を祝福する入隊予定者激励会が行われた。

2月22日(月)青森市「アップルパレス青森」での東青地区を皮切りに、23日(火)三沢市「きざん三沢」において上十三地区、同日、五所川原市「ふるさと交流圏民センター」において西北五地区、翌24日(水)八戸市「八戸グランドホテル」において三八地区、25日(木)弘前市「文化会館」において中弘南黒地区及び3月4日(木)むつ市「むつグランドホテル」においてむつ下北地区激励会がそれぞれ行われた。

各会場では、主催者、来賓の祝辞、部隊代表者等から激励の言葉のほか、北澤防衛大臣、三村青森県知事、八戸市出身で体育学校女子レスリング班所属の坂本2等陸尉及び七戸町出身で東洋大学陸上部の工藤正也君からの歓迎・激励ビデオメッセージが披露された。

(工藤君は、今年の箱根駅伝で9区の走者として同大学の2連覇に貢献。この春、曹候補生として入隊(当時は予定者)、自衛隊体育学校へ進む予定)

上十三地区の激励会では、入隊予定者を代表して三本木高等学校から航空自衛隊へ進む加藤あかねさんが、挫けそうになつた時は、今日の感動を胸に、国民に信頼される自衛官になりま

す」と決意と御礼を述べた。また、東青、西北五、中弘南黒地区は第9音楽隊(隊長 2等陸尉 養毛勝熊)、むつ地区は音楽隊(隊長 1等海尉 小林一考)、上十三、三八地区は北部航空音楽隊(隊長 3等空佐 佐藤義政)による激励演奏

がそれぞれ行なわれる等、各地区の激励会は盛会のうちに終了した。



防衛大学校学生 青森高等学校 横嶋 健吾



私が防衛大学校の入校にあつたの抱負として、学業面、体力面、精神面の三つを挙げたいと思う。

まず学業面について、防大では一般の大学と同じように、高校よりも更にレベルの高い内容の勉強をするので、一つ一つ理解を深め、遅れないようにしたい。また、国外の人達との交流のため、英語を話す能力も身につけた体力面で

は、訓練についていけるような肉体を作りたい。私は13年間水泳を続けてきたので、この13年間で培ってきた体力を、訓練や日頃の生活に活かしたいと思う。精神面では、学校生活にくじけそうになった時や、厳しい訓練の時に、諦めず最後までやり通す強い精神力を持ちたい。またたとえ困難な状況に直面した時でも、周囲の仲間と協力し、助け合っていけるようになりたいと思います。これらの抱負を達成すべく、これからは自分の生活、行動に責任を持ちたいと思う。そして四年後、周



薬剤科幹部候補生 青森大学薬剤部 奥瀬 健太郎

災害派遣やPKOなどで活躍する自衛隊の姿がニュースに取り上げられ、それを目にするうちに、私も困っている人の役に立ちたいと思い採用試験に挑戦してみました。幸運にも、私はこの春から薬剤科幹部候補生として久留米の学校に入校します。



1月に起きたハイチ大地震のように、自衛隊には国の防衛のみならず、災害派遣や国際平

和協力活動など、幅広い活躍が国民からも国際社会からも期待されています。その期待に応えられる自衛官になるには、常に自分に厳しく努力していかなければなりません。入校中、体力的・精神的に様々な困難なことがあるとは思いますが、「逆境における仲間は、困難を軽くする」と言う言葉のとおり、仲間たちと互いに助け合っていくことでどんな困難も乗り越えていけると信じています。



一般曹候補生(航空) 八戸高等学校 西塚 加津乃

私は、4月から航空自衛隊一般曹候補生として入隊します。最初は約4ヶ月間の基礎訓練のために山口県防府市にある防府南基地へ行くことになり、青森県から山口県へと本州の端から端まで移動すると言ふこと、知り合いないと言ふこともあり、不安でいっぱいでした。しかし、小さい頃からの夢に見ていた航空自衛官という職業に就けるといふ嬉しさや、将来日本の安全と平和を担う一員として働くことへの希望も大きく、とてもワクワクしています。



私も私が航空自衛官になりたいと思つたきっかけは姉の存在でした。14歳7年の離れた私の姉は、私が物心ついた時には既に航空自衛官でした。そのため、あまり家にはおらず、時々帰ってきた時に遊んでくれる程度だったのですが、私は優しい姉が大好きでした。そんな姉が私の憧れとなり、私は自然と自衛官という職業について興味を



八戸陣太鼓のよる激励演奏



持つようになったのです。それに加え、私は人と関わるのが好きなので、国内外で人のために働くことができる自衛官になりたいと強く思うようになりました。自衛隊は日本の平和を守り、国の安全を保つことを目的としています。しかし国防の面だけでなく、災害派遣や国際平和協力活動への取り組みなどの国際貢献、また民生協力の面においても、自衛隊の活躍が求められています。私達はそのような国民の期待に応えるべく、日々の教育や訓練により一層力を入れなければなりません。私は、これからの航空自衛官としての生活において、どんなに厳しくつらいことが待っていたとしても、八戸高校の3年間で培った協調性と向上心と粘り強さを礎に頑張っていきたいと思います。また、私の長年の夢である、英語を活かした職業につけるよう、努力していきたいと思っています。最後に、私が自衛隊に入隊するにあたって協力してくださった地方協力本部の皆様、八戸高校の先生方、そして何より私をいつも支えてくれた大切な友人達と家族に心から感謝します。

援護

『指揮官としての心構え』

経営者に講話

2月1日(月)、青森市「ホテル青森」で開催された日本政策金融公庫青森中小友の会「新春講演会」において竹本青森地方協力本部長が「Commanding Officer」と題して、防衛講話を実施した。

この「講話」は、同会が年々3回企画し、主に「金融」、「経済」等をテーマに行われているが、新春の講話は、経営の参考にと各方面から講話を招いているもので、当日は約50名の会員が参加した。

講話に先立ち、三上代表幹事が「今は、厳しい経営環境にあり、企業としては運営要領を変える段階にありません。今一度、人間としての働き方や女性の働く環境を考える機会にしたい」と挨拶した。

引き続き、本部長が海上幕僚監部勤務時代にテレビ放送された「ワーキング ウーマン」の紹介の後、「オペレーションへの挑戦」、「海外出張時のエピソード」、「海上女性自衛官の活躍」、そして、現在の本部長としての立場から「指揮官としての心構え」などについて、スライドとエピソード、家庭の状況も交え、約1時間30分にわたり講話した。

また、最後に「予備自衛官」、「即応予備自衛官」制度について、配布したパンフレット、スライドにより説明し、県内の経営者に対して退職自衛官の雇用を理解と協力をお願いした。

講話後、参加した会員からは、「自衛隊における女性の活躍や職場として職域の拡大を推進していることについては、我々企業とも合い通じる点が多く、今後の経営にも大変参考となった」などの感想が寄せられた。

なお、2月10日(水)には、八戸市においても同講演会が実施された。



防衛問題セミナー開催

「もつと話しを聞かせて」

3月17日(水)、弘前市総合学習センターにおいて、東北防衛局が主催する「防衛問題セミナー」を共催した。



今回のセミナーは、東北防衛局 増田慎吾局長、第1次派遣海賊対処海上自衛隊指揮官で現在、神奈川県地方協力本部長 1等海佐 五島浩司及び、竹本青森地方協力本部長の3名が講師となり、増田局長は「海賊対処と自衛隊」、五島1等海佐は「ソマリア沖・アデン湾における海賊対処活動について」、竹本本部長は「女は乗せない戦艦(いくさぶね)との闘い」と題してそれぞれ講演した。

会場となった弘前市は青森県の内陸部に位置し、普段、海上自衛隊の人や装備を目にする事の極めて少ない地域で、詰め掛けた約200名の方は、普段なかなか聞いたり実感したりすることのない、海賊対処のための防衛省の取り組みや、現地の海上自衛隊の活動内容、海上自衛隊での女性の進出の過程など、メモを取りながら熱心に聞き入っていた。

特に、水上部隊指揮官であった五島1等海佐の講演では、日本を遠くはなれ任務に邁進する乗組員や海賊船らしき船を発見した時、商船からのSOS通信を受信した時の様子、護衛を終えた商船から感謝の言葉を贈られた時のうれしさなど、現場に居た者にしかわからない生々しい状況を聞くことができたのが印象的だった。

最後に設けられた質問コーナーでは、「防衛予算は少なくなるのか」、「上空を警戒するヘリコプターは海賊から銃撃されなかったか」など防衛省全体に関わることや、現地で活動する隊員を気遣った質問が数多く寄せられる等、聴講された方々には、防衛省・自衛隊の取り組みや活動等の理解を深めていただけたものと感じております。

今後も皆様のご理解を得るための、このような機会を設けていきたいと考えております。



任期制隊員ライフプラン集合訓練

『任期制隊員、将来の目標を確立』



弘前駐屯地において平成22年4月13日(火)から15日(木)の間、また、八戸駐屯地において同年4月19日(月)から21日(水)の間、それぞれ任期制ライフプラン集合訓練を実施した。

同訓練は、1任期(2年)を満了した陸士を対象に、自己分析に基づいた人生設計を確立させるとともに、職業選択・資格取得等の能力開発の自助努力を促進することを目的として実施している。今回は、弘前駐屯地21名、八戸駐屯地33名、計54名の隊員が参加した。



訓練1日目は、陸上自衛隊の人事制度、援護施策の概要を皮切りに、援護組織、雇用情勢及び予備自衛官等制度等、ライフプランの作成に必要な基礎知識を付与するとともに、進路相談員(自衛隊援護協会 稲泉氏)による「自分の能力に自信を持ち、更に開発努力するためのにはどうすればよいか」をテーマとした講話により、目標確立の重要性について認識を深化させた。

訓練2日目からは、本訓練の主目的であるライフプラン作成について、部外講師の教育を受け、自己分析やライフプラン作成に当たっての

考え方・要領等について学んだ。各種エクササイズ等を活用した実習を織り交ぜながらの教育であったことから、隊員も興味を持ちながら真剣に実習に取り組んでいた。

最終日(訓練3日目)には、前2日間で学んだことを踏まえて、現時点での将来目標を隊員個々がしっかりと立て、ライフプラン表(経済・キャリアプラン)を完成させた。最後に、目標に向かっての決意を一人ひとりが発表し本訓練を終了した。

参加した隊員からは、「とてもためになった」、「今後の方向性・目標を考える上で参考になった」などの所感が得られ、教育の有効性も確認できた。

本訓練では、陸曹を目指す隊員、任期満了後に自衛官を退職し再就職等を考えている隊員、若しくは今後の進路について迷っている隊員等が混在していたが、いずれの隊員も将来に向けて自分を見つめ直し、現時点における目標をしっかりと確立できる良い機会であったと思われる。

今後も本訓練を継続し隊員の育成に努めていきたいと思っております。



士長	曹長	准尉	3尉	3尉	2尉	1尉	1尉	3佐	3年	3曹	曹長	准尉	准尉	3尉	2尉	1尉	1尉	5年(本部長)	士長	3曹	3曹	3曹	3曹	3曹	3曹	10年(方面総監)	2曹	2曹	1曹	1曹	20年(陸幕長)	1曹	1曹	30年(防衛大臣)	予備自衛官永年勤続表彰等(4/四期)
寺澤洋	向祐治	佐藤修二	高橋信一	木村博	金祐一	佐藤源浩	北村登	蝦名實	吉田剛	齋藤俊典	加川實	川嶋敏	関畑光雄	花田真一	穂積次郎	加藤幹春	馬場勝弘	山形新	山下日登志	角田力	小向純一	島貫真二	西館智	鳥貫真二	小保内訓	工藤徳弘	中村亨	山川和穂	若本三雄	笹原隆一	菅原隆一				

海自最大級護衛艦「ひゅうが」に驚き！募集



1月22日（金）から24日（日）の間、八戸港において、護衛艦「ひゅうが」（艦長 1等海佐 山田勝則）の艦艇広報を支援した。護衛艦「ひゅうが」は、ヘリ運用試験を伴う訓練の途中に八戸港4号埠頭に寄港したもので、昨年3月に就航した最新鋭艦の同艦は、ヘリ発着用の広大な甲板が大きな特徴といえる海上自衛隊最大級の護衛艦です。

22日（金）、艦内のヘリ格納庫で行われた入港歓迎式典では、小林八戸市長や主催者である坂本海上自衛隊護衛艦八戸港入港歓迎実行委員長らが参列し、同艦の入港を歓迎すると、第1護衛隊群司令（海将補 山下万喜）は、「同艦は防災協力など多岐に亘り運用ができることなど、今までの護衛艦との違いを皆様にも知っていただきたい」と挨拶を述べた。

翌23日（土）の一般公開では、県内外から5000人を超える見学者が訪れ、広い飛行甲板や巨大な格納庫に圧倒される方やヘリのコックピットに座り乗り心地を体感される方など、艦上は終日大賑わいとなった。

また、一般公開にあわせて青森地本八戸地域事務所では募集コーナーを開設し、来場した多くの方々に海上自衛隊の活動や自衛官募集について説明を行った。

見学に来た小学生の男の子は「初めて海上自衛隊の船に乗りました。とても大きく、いるんところを見るのができて、とても楽しかった」と興奮した様子で目を輝かせて話していた。



広大な飛行甲板に沈む夕日



飛行甲板の見学



格納庫から飛行甲板への巨大エレベーター



朝日を背に入港する「ひゅうが」



八戸地域事務所の募集コーナー



募集対象者へのヘリコプターの説明



ヘリ格納庫で行われた入港歓迎式典



HIROSAKI 弘前

大学合同企業説明会

自衛隊は「人を育てる組織」

2月9日（火）、青森地本弘前地域事務所は、弘前市「ベストウエスタン ニューシティー弘前」において、「平成21年度弘前大学合同企業説明会」に参加した。

この説明会は、同大学の学生就職支援センターが企画し、就職活動を迎える3年生、大学院生を対象に「企業等の人事担当者と直接会って話し、考え、行動する」ことを目的として平成16年度から行われているもので、当日は厳しい雇用情勢の中にあつて将来有望な学生を獲得したいと県内外から約100社の企業等が参加した。

スーツに身を包み緊張した面持ちの学生約400名は、志望する企業のブースをそれぞれ訪れ、熱心にメモを取るなど真剣に担当者の説明に聞き入っていた。

防衛省・自衛隊ブースでは、弘前地域事務所（所長 3等陸佐 町田賢一）より、「自衛隊の制度」「陸・海・空幹部自衛官の職域や役割」「幹部候補生採用試験」等の説明後、カレッジリクルーターの陸上自衛隊第9後方支援隊輸送隊（青森）山田2等陸尉、航空自衛隊第21高射隊（車力）金澤3等空尉が、「入隊の動機」「幹部自衛官としてのやり甲斐や魅力」等について自分の経験談を交え今の心情や勤務状況等について、力強く説明した。説明を受けた学生との質疑応答では、竹本本部長も加わり、職業人、家庭人としての経験を交え、わが子に接するかのよう親身に質問に答えていた。

最後に弘前地域事務所長から「自衛官はやり甲斐があり、自分の可能性を試せる職業です。そして自衛隊は人を育てる組織です。是非挑戦してください」と力説し説明会を終了した。

参加した学生は、「説明を受けて自衛隊のイメージが変わりました。将来の職業としては是非も受験したいです」と話していた。

『志願意欲UP』ヘリ体験搭乗

2月27日（土）、陸上自衛隊八戸駐屯地において、21年度最後となるヘリコプターによる体験搭乗を実施した。

当日は、八戸地区の募集対象者、募集協力者及び援護協力者等48人が、第9飛行隊操縦士 山岸2等陸尉による「飛行隊の任務」、「ヘリコプターの性能」及び「搭乗に当たつての注意事項」について説明を受けた後、UH1H1による八戸市上空約15分間のフライトを満喫した。

参加した女子大生は「今日の日のを楽しみにしていました。将来自衛官を目指していますが、今日体験させていただいたことで、また一つ、自衛隊のことを知ることができました。今春、予備自衛官補を受験します」。

また、男子中学生は「天気が良く海岸線や八戸の町並みや建物、そして自動車ミニチュアのように見えた。また、沢山の計器を自在に操作しているパイロットがとても格好良かった」と話していた。



新規採用事務官紹介



総務課企画・渉外係 行(一)1 片野 雄介 自分らしく

この度、晴れて防衛事務官として平成22年度4月1日付をもって青森地方協力本部で総務課企画・渉外係として採用されることになった片野雄介と申します。まず私の経歴を紹介致しますと、奈良県の生まれであり、大学時代は東京で過ごしました。ですので、青森県では生まれて初めて過ごすことになりました。実際に現地に着いてみると、思ったよりも寒いということでした。実際に現地に着いてみると、思ったよりも寒いということでした。...

新規採用非常勤隊員紹介



弘前地区援護センター 援護係 山本 修司 日進月歩

平成13年4月、39連隊で定年となり銀行及びホテル業界に9年間勤務し、疲労とストレスの毎日でありましたが、それ以上に豊富な人生経験を積み、一生の財産となりました。...



八戸地区援護センター 援護係 須田 富美男 誠心誠意

平成21年5月に八戸航空基地隊を定年退職しました。八戸航空基地隊では、援護室に約3年間勤務しました。八戸地区の雇用状況は、非常に厳しい状況にありますが、八戸援護センターの一員として、誠心誠意退職予定隊員の就職援護に全力を尽くす覚悟であります。...



総務課総務係 七戸 加奈子 有言実行

勤の七戸です。昨年まで民間企業の営業として働いておりました。初めて見聞きする事ばかりで好奇心と同時に戸惑いも多く、環境や仕事に慣れるまで時間がかかるのではなにかという不安もありましたが、一日でも早く仕事を覚え皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思っておりますので、ご指導の程何卒よろしくお願い申し上げます。



総務課広報係 長谷川 幸治 日々前進

前職は民間企業で営業職に従事し、今回自衛隊の広報という普段経験することのない業務に携わることが出来て大変光栄に思うと同時に、今後1年間様々な業務を通じて仕事の幅を広げていければと思っております。一杯がんばりますのでご指導の程何卒宜しくお願い申し上げます。

新着任自衛官紹介



総務課総務幹部 准陸尉 齊藤 良成 北部方面航空隊 なんとかなるさ

平成22年3月23日付で北部方面航空隊(丘珠)から、総務課総務班総務幹部として着任した齊藤准尉です。青森出身であります。昭和52年3月陸自生徒として陸上自衛官の道に進み、北海道で勤務していましたが、今回約30年ぶりに青森に帰ってまいりました。前職は、北部方面航空隊最優先に上級曹長として、部隊の陸曹以下の服務・訓練の指導等を実施してまいりました。...



総務課広報幹部 准陸尉 葛西 富夫 陸上自衛隊研究本部 教訓センター 初心忘るべからず

3月23日付で研究本部教訓センターから、広報室広報幹部に着任した葛西准尉です。青森地本での勤務は2回目となり、また地本で勤務できることを大変光栄に感じております。前回は広報室で勤務させていただきました。皆様は大変お世話になりました。...



総務課管理係長 陸曹長 澁谷 良一 第5普通科連隊 日々前進



総務課会計係 陸曹長 高田 黎明 東北方面会計隊 基本を大切に



八戸地区援護センター 援護係 陸曹長 笹山 勝彦 第9対戦車隊 努力は人を裏切らない



援護課予備自衛官係 陸曹長 石原 理志 東千歳駐屯地業務隊 夢は望めば目標となり努力することで現実のものとなる



総務課補給管理係 1等陸曹 梅澤 克則 東京地方協力本部 何事も前向きに



募集課業務班採用係 1等陸曹 川村 義続 中央輸送業務隊 成せば成る!



八戸地域事務所広報官 1等海曹 本田 新一 第2整備補給隊 一期一会



青森地区援護センター 援護係 1等陸曹 田中 功一 第101施設器材隊 一攫千金



弘前地区援護センター 広報官 2等陸曹 小野 浩志 第5高射特科群 意気衝天



八戸地域事務所広報官 2等陸曹 坂野 栄造 第4地对艦ミサイル連隊 ポジティブシンキング



五所川原地域事務所広報官 2等陸曹 須郷 寿昭 第9通信大隊 一期一会



総務課総務係 3等陸曹 新井田 清貴 第5高射特科群 根性



総務課広報室長 行(一)3 川戸 英樹 渉外専門官 仕事も遊びも “ビシャリ”

この度の異動で広報室長に上番いたしました川戸事務官です。はいえ、総務課内の所謂スリッパ異動でありますので、引き続き御厚誼を賜わりながら、職務に邁進していく所存でございます。今年度も広報室としましては、県内各地におきまして広報行事を開催し、広く県民の方々に防衛省・自衛隊並びに青森地方協力本部の活動等をPRして参りますので、皆様方の御指導・御協力を賜りますよう、宜しく御願いたします。



総務課企画・渉外班長 2等陸尉 東田 政尋 報道幹部 覚有情

4月1日付で総務課広報室(報道幹部)から企画渉外班長に上番しました東田2尉です。新たな職務の重責を自覚し、各協力団体、自治体関係者等と密接に連携して青森地本の任務達成のため、微力ではありますが、誠心誠意職務に全力を尽くす所存でありますので、今後とも皆様のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



援護課予備自衛官係 陸曹長 矢野 孝蔵 広報係長 前向きに



青森募集案内所広報官 2等陸曹 中澤 尚喜 補給係 継続は力なり



青森地区援護センター 援護幹部 准陸尉 相内 哲広 青森募集案内所副所長 温順篤実

凡例

名級氏前勤務地座右の銘
職階氏前勤務地座右の銘
新規の方の前勤務地は省略

転入者等紹介



副本部長
行(一)6
板垣 正則
地方協力局
地方調整課
公正無私

4月1日付で防衛省地方協力局地方調整課から副本部長に就任しました板垣でございます。

私は同じ東北は宮城県東北の出身ではありますが、採用からこれまで雪のある地方への勤務は初めてでありますし、地方勤務も初めての経験であります。

これまででは地方協力局(旧防衛施設庁)で駐留軍等労働者の労務管理や基地対策業務でありましたが、これまで培った経験を何か地本業務に活かせればと思っております。

また地本は防衛省の共同機関として陸海空の自衛官と事務官等で構成されている混成組織でありますので、本部長を補佐するのは勿論のこと、調整役として「公正無私」の考えで事に当たって行きたいと考えております。

さて青森に参りまして楽しみにしているのは有名な「ねぶた祭り」もそうですが、そのほかにも風光明媚な観光名所が多くあると聞いておりますので余暇を有効に使うつもりで参りたいと思っております。また青森と言えば「りんご」があり、新鮮なホタテなどの魚介類の料理があると思っておりますのでメタボにならない程度に堪能したいと思っております。そして東北でも難解といわれる津軽弁をマスターできればと思っております。

最後になります防衛省・自衛隊に対する青森県民の皆様方の期待の大きさを胸に刻むとともに、国民目線にたった対応を心がけ自衛隊の人的側面を支える自衛官の募集・援護等業務が円滑に遂行できるよう本部長の指導の下、新たな職務に邁進したいと考えております。どうぞ関係各位の皆様方のご指導・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



総務課長
行(一)6
阿部 裕文
陸上幕僚監部
装備部装備計画課
半歩踏み出す勇氣

この度、総務課長として着任いたしました阿部事務官です。前職は、陸幕装備部装備計画課で調達専門官として勤務しておりました。

し、調達と申しまして、物品購入等の会計的な実業務ではなく、専ら補給や装備施設本部との調整と調達事業の対応が主な業務でした。地本の総務課長は、山梨地本に次いで2回目になります。青森は、規模が大きく、陸・海・空・機関等の所在部隊等も多いので、これらの関係部隊及び地方自治体等との連携を密接にし、皆様のご支援・ご協力をいただき、微力ながら青森地方協力本部の任務達成に貢献していきたいと思っております。よろしくお願致します。



援護課予備自衛官班長
行(一)5
伊藤 広行
補給統制本部
継続は力なり

本年4月1日付で陸自補給統制本部から援護課予備自衛官班長として勤務することになりました。前職では、陸自の装軌・装輪車両の役務整備に係る調達業務に携わっておりました。出身は東北福島県ですが青森県の勤務については初めてであり、東京の温暖な気候に慣れてしまった体が寒さに耐えられるかとの不安を若干感じております。

担当させて頂く予備自衛官班長としての当該制度は、国家防衛の重要な柱の一つであると認識しております。この重要な任務を関係部隊等と連携を密に、ご指導ご協力を頂きながら、常に前向きな気持ちで青森地本の任務達成に微力ながら貢献していきたいと思っております。どうぞよろしくお願致します。



五所川原
地域事務所長
3等陸佐
三重野 郁子
第9後方支援連隊
威風堂々

3月23日付をもって第9後方支援連隊から五所川原地域事務所長に着任しました三重野3佐です。出身は弘前市で自衛隊は高卒で二等陸士から入隊し、北方、東方勤務を経てようやく故郷である青森に辿り着きました。

今回西北五地区が私の担当地域であります。青森、八戸、弘前と全く違う地域の特性を新鮮と感じることも、自然に恵まれたこの地域で仕事ができることをとてもうれしく思っている次第です。

着任してまだ日が浅いところではあります。既に父兄協議会総会等地域の皆様方から暖かい励ましのお言葉をいただき身が引き締まる思いです。初心を忘れることなく任務に邁進していく所存でありますので、皆さんどうぞよろしくお願致します。



募集課企画班長
1等陸尉
伊藤 隆史
第38普通科連隊
一期一会

第38普通科連隊から転入してまいりました。即応予備自衛官指定部隊として多賀城・神町・秋田駐屯地の出頭訓練を担当しておりました。出身は、青森市であり新隊員配置から約20年間、第5普通科連隊でお世話になっておりました。「異動しないな」と不安に思っていたところ平成15年に初異動し、その後約2年単位で東北各地の駐屯地を転々と廻らせていただいております。この度、また青森に帰ることができ、青森幸畑の自宅において静寂を満喫しております。

地本勤務は、初めてで未だに要領がつかめないとありますが、一瞬一瞬を大切に微力ながら業務に専心努力する所存です。皆様のご支援・ご協力、よろしくお願致します。



総務課総務班長
行(一)3
関 和実
中央情報隊
明日は明日の風が吹く

この4月の異動で、総務課総務班長として着任しました。過去に一度、地連の勤務は経験しておりますが、初の東北方面隊勤務であり、青森県のことはまだ何もわからず戸惑っている状態です。

仕事とこの土地に早く慣れ、少しでも戦力になれるよう、努力は惜しまないつもりです。そして、北東北の自然を満喫し、美味しい海の幸を堪能したいと思っております。ただし、今年の目標はダイエット。こちらも仕事同様に頑張ります。よろしくお願致します。



援護課援護班長
行(一)3
三浦 一寿
秋田駐屯地業務隊
継続は力なり

この度、援護班長として着任した三浦事務官です。前職は秋田駐屯地で勤務してまいりました。青森地本勤務は初めてです。知人に「転動した土地、人を好きになれ」と言われました。この言葉は援護業務に携わる上でも大切な言葉だと思ひ、日々実感しています。座右の銘は「継続は力なり」です。人間関係を大切にしていかなければならない今日、小さく目立たない事でも大切にして、いつか芽が出て花が咲くような事が出来たらいいと考えています。



援護課即応主任
行(一)3
木立 一紀
八戸駐屯地業務隊
笑う門には福来たる

この度、即応予備自衛官主任として着任した木立事務官です。前職は八戸駐屯地業務隊厚生課で勤務してまいりました。農林水産省からの配転で自衛隊に来て4年目になります。

地本勤務は初めてで、自衛隊勤務も少ないですが、少しでも早く仕事にも慣れて、足手まといにならないように頑張りたいと思っております。ご指導よろしくお願致します。



総務課会計班長
行(一)3
昆 真輝
仙台駐屯地業務隊
粘り強く

平成22年4月1日付で総務課会計班長に4番した昆事務官です。4月5日に初出勤しましたが、見るもの聞くものが初めてづくしです。逆に言えば、変な先入観がないのでそれはそれで良い事だと思ひました。上手が分からないので、皆様にはたくさんのお掛けするかと思ひますが、それを今後に活かしていきたいと思ひますので皆様の暖かいご指導・ご鞭撻の程をお願い致します。



総務課企画渉外
係長
行(一)2
須藤 隼史
経理装備局
会計課予算総括係

この度、4月1日付で企画・渉外係長に就任致しました須藤事務官です。出身は青森県弘前市です。東北での勤務は2回目となりますが、地元に戻ってきたということで気持ちを入れ替えて頑張りたいと思っております。今までの経験を一杯活かして頑張りたいと思っておりますのでこれから宜しくお願致します。

「歴史を教訓としたい」

青森県自衛隊雇用協議会連合会

会長 田中 恵一



青森地方協力本部主催の部隊研修の一環は、肌寒い青森から広島に向けて出発した。

この度の研修は、青森地方協力本部と共に行は、広島へ向けて出発した。原爆資料館では、広島への米軍の原爆投下の実態とその凄惨な記録資料の数々を見学した。惨状の写真、模型を見せられ、改めて核兵器の恐ろしさを認識するとともに、「何故にこのような物を一般市民の街に投下したのであるのか？」という疑問は更に深まってきた。

青森地方協力本部竹本部長と共に1日目は、海上自衛隊呉史料館「てつにくじら館」の見学研修。2日目は、広島市の原爆資料館の見学、江田島の海上自衛隊第一術科学校、幹部候補生学校及び旧海軍兵学校以来の施設の見学と教育参考館に保存してある旧海軍の数々の偉業と記録記念資料の考察研修であった。

まず、呉史料館において初めて海上自衛隊の機雷掃海業務の実態をつぶさに説明を受けて、自衛隊の任務の広さに大変驚いた。戦争中に日米両軍が日本領土の周りに敷設した何万個もの機雷の掃海除去、朝鮮戦争時の機雷除去処理の言わば裏方仕事を戦後何十年にも亘って遂行してきたことを知り、本当に深い感銘を覚えた。

近年では、遠くインド洋・中近東海域で過酷な条件下、多大な国際貢献をしている海上自衛隊の任務に関して説明を受け、改めて感心するとともに今日自由に航海できることに感謝した。

教育参考館に於ける日露戦争、太平洋戦争の記念品、そして特攻隊兵士の数々の遺品、遺言は、「誰が、何故こんな戦争をしたのか？」と悲痛な声を上げていた。歴史は権力と数々の欲にとりつかれた人間が同じ過ちを繰り返している事を証明している。

信長も秀吉も源平の盛衰を知っていたであろうし、ヒトラーもローマ帝国の興亡もナポレオンの失敗も知っていたであろう。しかし現在の人類社会で、国家という枠組みが人類共存の為に唯一合理的なものであれば、価値観や利害の調整はいつの時代も軍事力、武力という力を背景にした交渉を全く否定することは出来ない。言論、議論での交渉の有効性の補完の為に軍事力が必要であることは、現実的認識であろう。人を切った刀は全て名刀ではないし、名刀はすなわち人を切るものではない。古来より「伝家の宝刀は抜くものではない」と言われている。国家においても人間同様に文武両道であるべきであろう。

戦いの結末の悲惨さは、戦う人間が一番よく知っているという。そんな選択が絶対無いような知恵のある政治が常に求められるべきで、国際外交は勿論の事、経済金融行政においても、青少年の教育においても常に品質の高い政治の運営がなされるべきであろう。そんな事を願いつつ春の瀬戸内を後にした。

平成22年3月9日 記



幹部学校庁舎前での記念撮影

教育参考館に於ける日露戦争、太平洋戦争の記念品、そして特攻隊兵士の数々の遺品、遺言は、「誰が、何故こんな戦争をしたのか？」と悲痛な声を上げていた。歴史は権力と数々の欲にとりつかれた人間が同じ過ちを繰り返している事を証明している。



海上自衛隊呉史料館「てつにくじら館」



旧海軍施設の説明を受ける田中会長一行

己の本分をつくせ！ AOMORI CENTER 100% 援護

援護係

1等陸曹 三上 利栄子
秋田県横手市
企業訪問
ガーデニング
若い時の苦労はかってませよ。

陸曹長 高橋 伸一郎
青森県青森市
特になし
家族旅行・海釣り
克己

援護幹部

准陸尉 相内 哲広
青森県東津軽郡今別町
野球
釣り、山菜採り
一生懸命
援護マンとして、企業開拓し退職者の気持ちに添うよう頑張っていくかと思っています。

准陸尉 新保 博行
西津軽郡鯉ヶ沢町
格闘上級指導官、レンジャー
船釣り(なんでも釣り)、山菜採り
平常心
退職自衛官の幸福のため一杯就職援護に頑張ります。

副センター長

2等陸尉 成田 重勝
青森県平川市(旧尾上町)
野球
映画鑑賞、スポーツ鑑賞
希望・夢・前進
物事を、前向きに考えようとしています。

センター長

3等陸佐 木村 忠則
青森県北津軽郡中泊町
ギター
ドライブ、温泉巡り
一歩前進

階級氏名
出身地
特技
趣味
好きな言葉
その他

青森地区センターの沿革

青森駐屯地に所在し、駐屯地援護室から青森地方連絡部を経て平成18年7月の改編により、青森地方協力本部青森地区援護センターとして生まれ変わり、現在に至る。

お気軽にお立ち寄りください。

担当地区：青森市、平内町、今別町、外ヶ浜町、蓬田村 お問い合わせは、017-781-0439 FAX 兼用